Canon

RF-S
14-30mm F4-6.3 IS STM PZ
使用説明書

安全上のご注意.....2
一般的なご注意.....3
各部の名称.....4
1.レンズの取り付け／取り外し.....5
2.フォーカス/コントロールリング.....6
3.ズーミング.....8
4.手ブレ補正機能.....10
5.フード（別売）.....12
6.フィルター（別売）.....14
主な仕様.....15

JPN

キヤノン製品のお買い上げ誠にありがとうございます。

キヤノンRF-S14-30mm F4-6.3 IS STM PZは、RF-Sレンズ対応EOS Rシリーズカメラ*用の広角ズームレンズです。

* フルサイズセンサーのEOS Rシリーズカメラに装着した際は、撮影画面の中央部をクロップした撮影になります。（APS-Cサイズ相当）
詳しくはカメラの使用説明書をご覧ください。

- ISはImage Stabilizer（手ブレ補正機能）の略称です。
- STMはStepping Motor（ステッピングモーター）の略称です。
- PZはPower Zoom（電動ズーム機能）の略称です。

本文中のマークについて

撮影に不都合が生じる可能性のある注意事項などが書いてあります。

基本操作に加えて知っておいていただきたい事項が書いてあります。

カメラのファームウェアとカメラアプリケーションについて

お使いのカメラのファームウェアと、対応したカメラアプリケーションは最新のバージョンにしてください。それらの最新バージョンの有無やアップデート方法については、キヤノンのホームページで確認してください。

カメラ*のファームウェアが対応したバージョンでない場合、次の制限があります。
- 拡大表示できません。
- その他、カメラの動作に不具合が生じることがあります。

*以下のカメラにおいて
EOS R、EOS RP

安全上のご注意

安全に使っていただくための注意事項です。必ずお読みください。お使いになる方と他の人々への危害や障害の発生を防ぐためにお守りください。

⚠ 警告　**死亡や重傷を負う可能性がある内容です。**

- **レンズを通して、太陽や強い光源を直接見ないでください。**失明の原因となります。
- **レンズキャップを取り付けていないレンズを、日光下に放置しないでください。**レンズに入った太陽光が集まり、故障や火災の原因となります。

⚠ 注意　**傷害や、製品以外の物的損害を負う可能性がある内容です。**

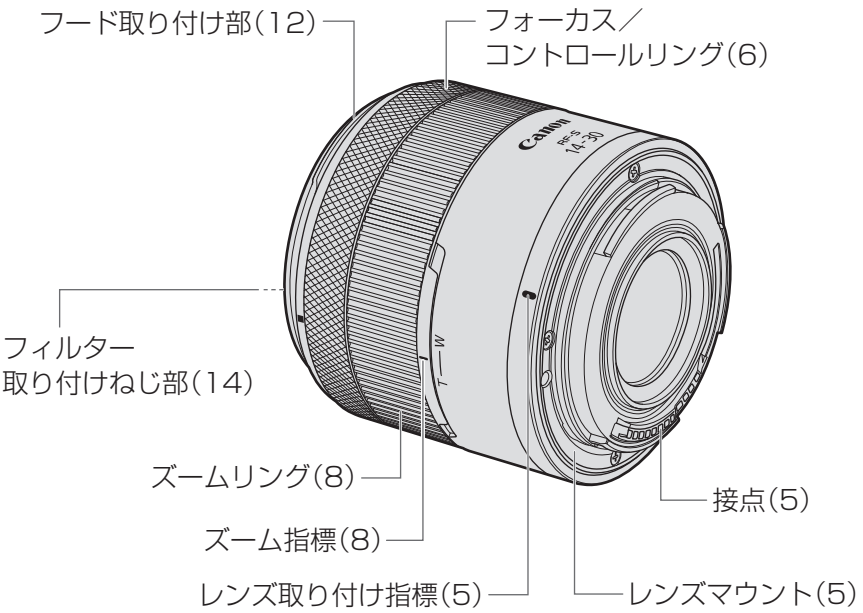
- **製品を高温や低温となる場所に放置しないでください。**製品に触れるとやけどやけがの原因となります。

一般的なご注意

取り扱い上のご注意

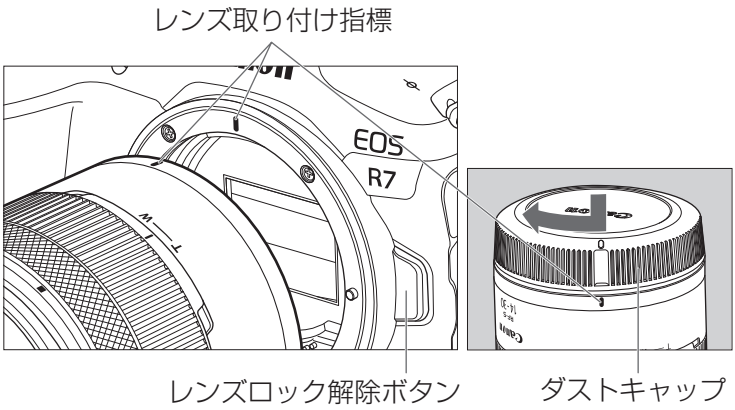
- 日光下の車の中など、高温となる場所に製品を放置しないでください。故障の原因となります。
- レンズを寒い場所から暖かい場所に移すと、レンズの外部や内部に水滴が付着（結露）することがあります。そのようなときは、事前にレンズをビニール袋に入れて、周囲の温度になじませてから、取り出してください。また、暖かい場所から寒い場所に移すときも、同様にしてください。
- レンズの内部が揺れ動いて見えることがありますが、故障ではなく、使用上の問題はありません。
- 適切な絞り制御のため、絞り優先AEやマニュアル露出などの絞り数値を指定した撮影時であっても、ズーミングによって絞り羽根が動くことがあります。
- カメラの使用説明書の取り扱いに関する記載もご覧ください。

各部の名称



● (＊＊) の＊＊部は参照ページを示しています。

1. レンズの取り付け／取り外し



レンズの取り付け方

レンズ側とカメラ側のレンズ取り付け指標を合わせ、レンズを時計方向に「カチッ」と音がするまで回します。

レンズの取り外し方

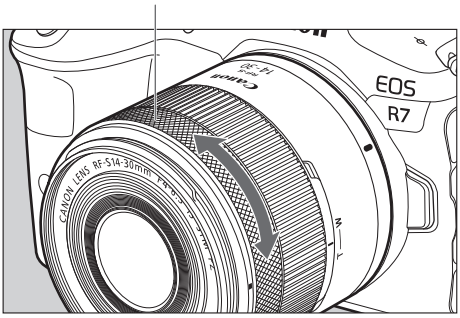
カメラのレンズロック解除ボタンを押しながら、レンズを反時計方向に回します。回転が止まるまで回してから取り外します。

詳しくはカメラの使用説明書をご覧ください。

- レンズの取り付け/取り外しを行うときは、カメラの電源スイッチをOFFにしてください。
- レンズを取り外す前に、レンズキャップを取り付けてください。
- レンズを取り外したときは、接点やレンズ面を傷つけないように、レンズマウント側を上にして置き、ダストキャップを取り付けてください。ダストキャップを取り付けるときは、レンズ側とダストキャップ側の取り付け指標を合わせてください。
- 接点に傷、汚れ、指紋などが付くと接触不良や腐食の原因になり、動作不良を起こすことがあります。汚れなどが付いたときは、柔らかい布で接点を清掃してください。

2. フォーカス / コントロールリング

フォーカス/コントロールリングは、フォーカスリング、もしくはコントロールリングとして使うことができます。



フォーカスリングとコントロールリングの切り換えは、カメラ側で行います。
切り換え非対応カメラ*ではフォーカスリングとしてのみ使うことができます。
詳しくはカメラの使用説明書をご覧ください。
* EOS R, RP, Ra, R5, R6

フォーカスリングとして使う

フォーカスモード（AF/MF）はカメラ側で設定します。
オートフォーカス（AF）で撮影するときは、カメラのフォーカスモードを［AF］にします。
マニュアルフォーカス（MF）で撮影するときは、カメラのフォーカスモードを［MF］にし、フォーカスリング（フォーカス/コントロールリング）を回してピントを合わせます。

コントロールリングとして使う

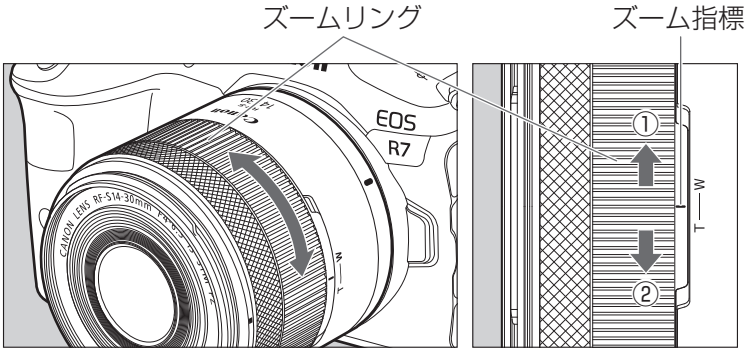
コントロールリングの機能はカメラ側のメニューで設定します。シャッター速度や絞り数値の設定など、カメラでよく使う機能を割り当てることができます。
コントロールリングの使い方について、詳しくはカメラの使用説明書をご覧ください。

- このレンズにフォーカスモードスイッチ、およびフォーカス/コントロール切り換えスイッチはありません。
- フォーカスリング（フォーカス/コントロールリング）を急回転させた場合、ピント合わせが遅れることがあります。

- このレンズのフォーカスリング（フォーカス/コントロールリング）は電子式です。
- このレンズは、レンズの電子式手動フォーカス、および電子式フルタイムMFに対応しています。
- 動画撮影時は、静止画撮影時よりもAFが遅くなります。動画サーボAFを［する］に設定すると、カメラ側でAF速度の調整を行うことができます。

詳しくはカメラの使用説明書をご覧ください。

3. ズーミング



このレンズはズームリングを回すと電動でズーミング（パワーズーム）を行います。［W］側に回す①とワイド（広角）側に、［T］側に回す②とテレ（望遠）側にレンズが動きます。
ズームリングを回す角度でズームスピードが2段階に変化します。大きく回すほど、ズームスピードが速くなります。
手を離すとズームリングが元に戻り、ズーミングが止まります。

- ピント合わせはズーミングしたあとで行ってください。ピントを合わせてからズーミングすると、ピント誤差が生じることがあります。
- ズームスピードを高速にしてズーミングさせた場合、一時的にピントがボケることがあります。
- 動画撮影中にズーミングを行うと、レンズの動作音が記録されることがあります。その場合は、ズームスピードを低速にしてズーミングしてください。

ズーミング

- カメラの設定変更により、カメラ側の操作でズーミングが可能です*1*2。
- ズームリングを回したときのズームスピードは、初期状態では「静止画撮影時、および動画撮影モード時の動画撮影開始前」と、「動画撮影中」とで異なります。
- ズームリングを回したときのズームスピードの設定を、カメラ側から変更可能です*3。

詳しくはカメラの使用説明書をご覧ください。

*1 EOS R、RP、Ra、R3、R6、R6 Mark II、R7、R8、R10、R50、R100は除く。
*2 EOS R5、R5Cは、動画撮影モード時のみ可能です。
*3 EOS R、RP、Ra、R1、R3、R5、R5C、R5 Mark II、R6、R6 Mark II、R7、R8、R10、R50、R100は除く。

4. 手ブレ補正機能

撮影状況（静止した被写体の撮影、流し撮りなど）に応じた手ブレ補正を行います。
手ブレ補正機能のON/OFFは、カメラ側で設定します。詳しくはカメラの使用説明書をご覧ください。

- 被写体が動くことによって生じるブレは補正できません。
- 大きく揺れ動く乗り物から撮影するときは、手ブレ補正効果が十分に得られないことがあります。
- 三脚を使用した場合は、手ブレ補正機能をOFFにすることをおすすめします。
- 一脚を使った場合も手ブレ補正は働きますが、撮影条件によっては補正効果が十分に得られないことがあります。

- ボディー内手ブレ補正機構搭載のカメラと組み合わせると協調制御を行います。

手ブレ補正機能

このレンズの手ブレ補正は、次のような条件の手持ち撮影に適しています。

- 夕景や室内など、薄暗い場所
- 美術館や舞台など、ストロボが使えない場所
- 足場が不安定な状況
- その他、速いシャッター速度が使えない状況

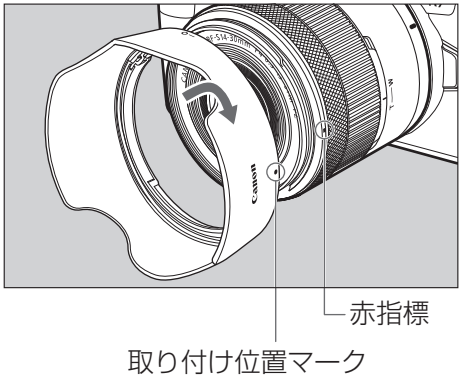
- 自動車や鉄道などの流し撮り
  水平方向の流し撮りのときは上下方向の手ブレ、垂直方向の流し撮りのときは左右方向の手ブレを補正します。

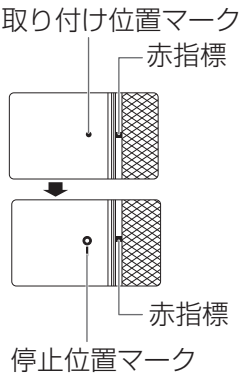
5. フード（別売）

専用のフードは、フレアやゴーストの原因となる不要光をさえぎるとともに、雨・雪・ほこりなどからレンズ前面を保護します。

フードの取り付け方

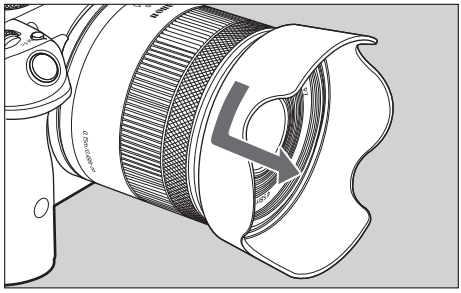
フードの赤い取り付け位置マークとレンズ先端にある赤指標を合わせ、レンズの赤指標とフードの停止位置マークが合うまで、フードを矢印の方向に回して確実に取り付けてください。





フードの取り外し方

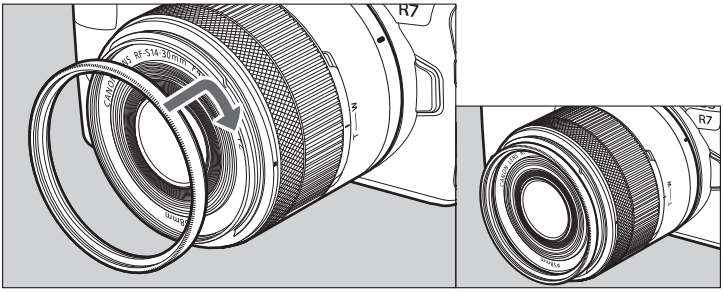
フードの取り付け位置マークとレンズ先端にある赤指標が合うまで、フードを矢印の方向に回して取り外します。
収納時にはフードをレンズに逆向きにかぶせることができます。



- フードが正しく取り付けられていないと、撮影画面にケラレが生じることがあります。
- フードの取り付けや取り外しをするときは、フードの根元付近を持って回してください。フードの先端付近を持つと変形して回らなくなることがあります。

6. フィルター（別売）

フィルター（Φ58）は、レンズ先端のフィルター取り付けねじ部に取り付けます。



● フィルターは1枚のみ使えます。

主な仕様

焦点距離・明るさ	14-30mm F4-6.3
レンズ構成	9群10枚
開放絞り数値	F4-6.3（1/3段表示）、F4-6.7（1/2段表示）
最小絞り数値	F22-36（1/3段表示）、F22-38（1/2段表示）
画角	水平78°5'～41°25'、 垂直56°40'～28°15'、 対角88°30'～48°50'
最短撮影距離	0.15m
最大撮影倍率	0.38倍（30mm時）
画界	約126×84mm（14mm、0.15m時） 約57×38mm（30mm、0.15m時）
フィルター径	58mm
最大径×長さ	約69.6×62mm
質量	約181g
フード	EW-63C（別売）
レンズキャップ	E-58II*
レンズダストキャップ	レンズダストキャップRF/RF II*
ケース	LP1014（別売）

* レンズに同梱されていますが、単品でも購入できます。

主な仕様

- 35mmフォーマット換算での焦点距離イメージは23-48mmとなります。
- レンズの長さはレンズマウント面からレンズ先端までの寸法です。付属のレンズキャップおよびダストキャップをつけたときの長さは寸法表示+24.2mmになります。
- 最大径×長さ・質量は本体のみの値です。
- エクステンダーは使用できません。
- 一部のカメラ*では、このレンズを使った多重露出撮影はできません。
  *EOS R, RP, Ra, R5, R5C, R6
- 連写中のズーミングで、歪みが目立つ画像が撮影されることがあります。
- 記載のデータはすべて当社基準によります。
- 製品の仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。
- 開放絞りから絞りを1クリック分だけ変更したときに、絞り数値の表示が変化しない、または2クリック分変化することがあります。この現象は絞り数値の表示上の制約によるもので、実際の露出制御は適切に行われます。

修理対応について

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりはお客様にてご負担願います。
2. 本製品の修理対応期間は、製品の製造打切り後7年間です。なお、弊社の判断により修理対応として同一機種または同程度の機種への本体交換を実施させていただく場合があります。同程度の機種との交換の場合、お手持ちの消耗品や付属品がご使用いただけなくなることがあります。
3. 修理品をご送付の場合は、撮影された画像を添付するなど、修理箇所を明確にご指示のうえ、十分な梱包でお送りください。

キヤノンEOSホームページ

canon.jp/eos

キヤノンお客様相談センター

0570-08-0002（つながらないときは 03-6634-4264）

受付時間〈平日/土〉9:00 ～ 17:00
（12月31日から1月3日は、休ませていただきます。）
※受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

Canon

CT1-D389-B
© CANON INC. 2025
0226Ni